

ホネナシサンゴ



水族館へ行こう!

京都大学白浜水族館

12

深見裕伸

以前紹介したイシサンゴは、石灰質の骨格を持つているという点が、イソギンチャクと異なる最

外見はイソギンチャクとつり二つ。中にはイソギンチャクモドキというややこしい名前の種類もいる。イソギンチャク類とは体の内部構造が違うために区別されているのだが、外見上の違いは実にささいなものである。

う二つの学説がある。これについては議論が続いている。まだ決着はついていないが、現在は「サンゴの祖先」説が主流である。ホネナシサンゴ類は独自の分類群として扱われている。

小さいが、英語で宝石イソギンチャクと呼ばれているだけあって透明できれいだ。水族館では2カ所の水槽の壁面に大繁殖しているものの、野外ではいまだかつてこの種を見たことがない。水族館では自然に繁殖したそうであるが、いつどこからやって来たのか不明である。

イソギンチャクと、つり二つ

つは、上
述したイ
ソギンチ
ャクモド

大の違いである。しかし、世の中には何事も例外があるもので、ホネナシサンゴと呼ばれる骨のないサンゴがいる。

イソギンチャクとつり二つのイソギンチャクモドキ(水槽番号201)

イソギンチャク類の下部には、移動時に用いる足盤という構造がある。一方、ホネナシサンゴ類にはその足盤がなく自分で移動できないのだ。ホネナシサンゴ類には「サンゴなのだが骨格を失った」「骨格を持つ前のサンゴの祖先種」とい

ナシサンゴ類の二つのグループを見ることができ。一つは、名前の通りホネナシサンゴである。マメホネナシサンゴという種類で、見た目はイソギンチャクそのものだが、触手の先端がボール状になるとい特徴を持つ。体は1センチ程度と非常

キである。これも見た目はイソギンチャクのあるグループにそっくりだ。このホネナシサンゴ類は非常に認知度の低い動物だが、こういう珍しい生き物を見ることができれば、水族館ならではの楽しみ方がある。

(京都大学助教)